



# くすり博物館だより

〒483 岐阜県羽島郡川島町・内藤記念くすり博物館・Phone: 058689-3111

第10号

## 図録「目で見るとくすりの博物誌」発刊

くすり博物館の収蔵資料は2万点を越し、まだまだ増え続けています。加えて見学者も年々増加し、各方面からの問合せも増えています。

展示スペースは限られていますが、できるだけ広範囲にわかりやすく、見学者には印象深く、また、まだ来館の機会のない人にも鮮烈に、くすり博物館と、その資料を通しての時代を紹介する手段を考え続けてきました。

今回の図録「目で見るとくすりの博物誌」は、こうした意図に基いて企画編集されたものです。

### 編集に携って——

現行の「くすり博物館」(36ページ・300円)を改訂することになって企画を練り始めたのは今年2月末のことでした。寒さ厳しいころです。

大まかなレイアウトが決まり撮影に入ったのは3月末です。

撮影点数が296カットにも及ぶところから、撮影作業は3期に分けて1クール1週間程度、延べ20日余りとなりました。朝8時から夜10時すぎまで一点一点資料を運び上げ、点検し綿密に撮影を進めました。

大変な重労働ながらも終始、撮影アイデアを出しあい、また手早く丹念に撮影を進めてくれたスタッフ、特に星野守カメラマンのことは特筆しておきます。この段階でほとんど骨子ができあがったといえましょう。

単なる館内の展示解説に終わらず、また砂をかむような歴史参考書でも



ない、生の資料で薬の歴史をみて楽しんでいただけるよう、写真を極力多くし、また英文も入れました。

▲「目で見るとくすりの博物誌」  
B5版上製・96ページ・カラー  
定価 1,900円(送料 250円)

春爛漫のころでした。



写真のできあがりを待ち、レイアウトに多少手を入れながら、原稿書きに着手したのは黄金週間のころ。ところが特別展「くすりの錦絵広告」の準備や、その反響による報道陣の急増などで、原稿書きは思いのほか難渋しました。盆踊りや花火の音を遠い世界のことと聞き流しつつ、どうにか全ての原稿を書き終え、入れ替わりにボツボツ写植が打ちあがり始めたころ、涼風が立ちススキは穂を出していました。



▲制作スタッフのミーティング：左から写真編集者の尾白豊氏、文字編集の百崎誠氏、筆者、プロデューサーの小柳功氏。

\* \* \*

文字のレイアウトをし、英訳文も入れ終えて初校をしたのは9月。掲載資料の選択、全体の構成と編集、文章の推敲など行き届かぬところが多々ありますが、とにかく12月初旬世に出すことができました。冬が再びめぐり来ようとしています。

(恵)



# らんびきを使って

## 海水から真水をとる・公開実験

漂流した船で生きながらえるために、船乗りたちはどのようにして水を得ていたのでしょうか。

照りつける太陽、船の周りにはあり余るほどの海水……。古文書は一部の賢明な船乗りたちが、「らんびき」という道具を使って、海水から真水をとっていたことを物語っています。理論的にはなるほどと思わせるのですが、果たしてどんな水がどの程度得られたのでしょうか。

こうした素朴な疑問を発端に、9月18日、半田市立小学校の校庭で公開実験がされ、名古屋テレビで放映されました。



### 素朴な方法で試みる

これに先だち、半田市郷土館で9月14日予備実験も実施、鍋や桶、かまど等、多少装置を修正して本番に臨みました。



◀予備実験では、せっかく出てきた蒸留水も管が短かくてうまく受け取れない。

▶本番では管をうんと長く改良。

実験は下のような装置で行なわれました。かまどに鉄釜をのせ、海水を入れます。



◀隙間を防ぐため、日本手ぬぐいを釜のふちに置いていく。



▶海水を入れる

▶桶をのせる



▼桶の構造



▼冷却水用の鍋に水を注ぐ。



▲熱くなった冷却水を時々取り替える



出てきた蒸留水は、毎分約50cc。ポタポタと、思ったより効率よく出て、この実験はまずまず成功でした。

工夫された方法「らんびき」で試みる

ところで、これに先だって当館内でも「らんびき」の複製（記念品として販売中のもの）を使って実験してみました。

最下段の水を煮沸する時、最初の火加減は弱火にして割れないように用心しましたが、それでも小さくピシッと音がして冷やりとしました。

冷却水は想像以上に早く熱くなる

ので、しょっちゅう取り換えます。



こうして毎分約25ccの蒸留水がとれました。やはり合理的によく考えられた形状のためか、効率的です。

また、中段に薄荷の葉を沢山入れて同様の実験をしてみると、さわやかな匂いのついた溜液がとれました。

庭の樟の葉でも同様の実験ができそうです。



錬金術から現代まで

南蛮文化の落とし子、蒸留法も現代では石油の精製から大規模な酒の蒸留まで広く現代生活に生かされています。

神秘的で魔術のような錬金術の試行錯誤が、この蒸留の科学を生み出し、私たちの日常にある酒や香水、ガソリンなどに至ったことに思いをはせて、身近なものにもう一度目を配ってみるのもよいことではないでしょうか。



▲ウイスキー蒸留所(サントリー白州)



## 次回特別展のおしらせ

有史以来人類を苦しめてきた天然痘は、1980年5月8日、WHOによって根絶が宣言されました。恐るべき伝染病の1つが地球上から消滅したということは画期的なことといえましょう。これを記念して下記要領で来春特別展を開催します。

### 天然痘ゼロへの道——ジェンナーから未来のワクチンへ——

第21回医学会総会場 4月3日～11日  
大阪 大丸(心齋橋) 4月14日～19日  
東京 大丸(八重州) 4月21日～26日  
岐阜 くすり博物館 4月30日～6月30日

## 新収蔵資料

### 豊田勤治氏蔵書

約500冊の蔵書が寄贈されました。氏は昭和20年復員後、厚生省に入省され、国立衛生試験所大阪支所長、厚生省薬務局審議官を歴任し、現在、東京医薬品工業協会(東薬工)常務理事を勤めておられます。

### 富山絵31点

富山のくすりやさんが持ってきてくれた紙風船は、大人たちの郷愁となって胸に焼きついています。紙風船以前の富山売薬のみやげ物としてあげられる富山絵を、今期かなりまとまった数で収蔵できました。

前川久美氏(東京都)が寄託の14枚と、当館で購入した17枚の計31枚です。これで、現在富山絵の総数は、134点となりました。

### 須恵器薬壺

竹内孝一氏(愛知県・医師)から寄託されました。大変美しい壺です。



わが国の天然痘の歴史やジェンナー(英)の牛痘法の発見、WHOによる天然痘根絶作戦そして未来のワクチンにいたるまで、日本全国はもとより、スイスのWHO本部やイギリスのウェルカム基金、英国科学博物館そしてアメリカからも多数資料を収集したり借用します。

なかでも、ジェンナーが子供に種痘をしている等身大のブロンズ像やジェンナーの遺髪、WHO天然痘根絶委員の署名入り根絶宣言書など海を越えてやってくる大変貴重な資料が話題を呼ぶことでしょう。

スミソニアン展の時、お世話になった国立歴史博物館・医学部門長の

Dr. コンドラタス(米)やWHO天然痘根絶本部長のDr. 蟻田(スイス在)、それにパストゥール展の時お世話になったエーザイ・パリ事務所の松岡慶子氏はじめ、日本各地の医史学研究者など各方面から大変熱心な支援を受けて、着々と準備は進んでいます。ご期待下さい。

▶打合せのため  
来日したDr. 蟻田



◀世界初のワクチンをとった牛の角

### 未痘児取調簿ほか27点

湯浅四郎氏(愛知県)から寄贈されました。同氏の幅広い知識に裏付けされた収集は有名で、開館以来貴重な資料を多数寄贈を受けています。

### 戦前・戦後の薬品33点

小荷田邦子氏(埼玉県・薬局)から寄贈されました。非常時の様子がしのばれるラベルや印紙など貴重なものです。

### 早川家旧蔵資料

初代早川賢三は華岡塾の門下生であったという同家(岐阜県関市)は代々医家で、4代までそれぞれ賢三を名乗り遠く郡上からも患者が詰めかけた名医であったといひます。子孫(5代目)の千葉清子氏から診療用具・薬品・図書など約250点の資料を寄託されました。

早川家遠景▶



### 購入資料あれこれ

毒薬用乳鉢(江戸ガラス)やオランダ徳利、薬の制札などのほか下記購入しました。



◀銅製らんびき



▼微塵鏡



▶鼻煙壺

◀中国の薬入れ

### コレラ養生法ほか

杉浦翠氏(京都市・一力亭主人)から寄贈されました。京都の疫病の歴史の一端を知る上にも興味深く、さすがに伝統ある料亭だけに、このようなものが、さりげなく今日まで残されていたことに驚かされます。



—くすり博物館利用状況(来館者)／昭和46.6.12～57.11.30—

|       |                   |           |           | 医・薬<br>関 係 | 生徒・<br>児 童 | 一 般 | 一 日<br>平 均 |
|-------|-------------------|-----------|-----------|------------|------------|-----|------------|
| 第1年度  | 昭和46.6.12～47.3.31 |           | 11,654人   | 45%        | 20%        | 35% | 49.8人      |
| 第2年度  | 昭和47.4.1～48.3.31  |           | 12,577人   | 35%        | 20%        | 45% | 41.2人      |
| 第3年度  | 昭和48.4.1～49.3.31  |           | 13,037人   | 40%        | 25%        | 35% | 42.6人      |
| 第4年度  | 昭和49.4.1～50.3.31  |           | 14,738人   | 35%        | 30%        | 35% | 46.9人      |
| 第5年度  | 昭和50.4.1～51.3.31  |           | 14,190人   | 30%        | 32%        | 38% | 46.1人      |
| 第6年度  | 昭和51.4.1～52.3.31  |           | 12,952人   | 34%        | 36%        | 30% | 42.2人      |
| 第7年度  | 昭和52.4.1～53.3.31  |           | 14,488人   | 28%        | 33%        | 39% | 46.0人      |
| 第8年度  | 昭和53.4.1～54.3.31  |           | 17,025人   | 15%        | 40%        | 45% | 55人        |
| 第9年度  | 昭和54.4.1～55.3.31  |           | 20,079人   | 6%         | 34%        | 60% | 66人        |
| 第10年度 | 昭和55.4.1～56.3.31  |           | 22,203人   | 10%        | 42%        | 48% | 73人        |
| 第1年度  | 昭和56.4.1～57.3.31  |           | 22,620人   | 7%         | 41%        | 52% | 73人        |
| 第2年度  | 昭和57.4.1～57.11.31 | (20,071人) | (20,071人) | 6%         | 33%        | 61% | 96人        |

「博物館だより」も順調に第10号を  
数え、ここにこれまでの来館者数を  
改めて振り返ってみることにしまし

た。来館者数はほぼ倍増しており、  
58年春には20万人を突破すると思わ  
れます。専門家のみならず、一般や

学生の見学者の割合が増えたことは  
生涯教育の見地からも大変喜ばしい  
傾向にあると言えます。

◎ご利用下さい：くすり博物館見学記念品・出版物

|                   |           |        |                   |         |        |
|-------------------|-----------|--------|-------------------|---------|--------|
| 図録「目で見るとくすりの博物誌」  |           | 1,900円 | 置物「白沢」ミニチュア       | h 6.5cm | 800円   |
| ガイドブック「くすり博物館」    |           | 300円   | 置物「白沢」ミニチュア       | h 3cm   | 300円   |
| 「蔵書目録 和漢書の部 1977」 |           | 3,000円 | 置物「らんびき」複製        | h 28cm  | 7,000円 |
| 「結核絶滅への道」         | 岡西順二郎著    | 200円   | 置物「らんびき」ミニチュア     | h 14cm  | 2,000円 |
| 「わが国の結核」          | 小松良夫著     | 200円   | 錦絵複製「房事養生鑑・飲食養生鑑」 | 2枚組     | 1,000円 |
| 「現代の性教育」          | 性教育を考える会編 | 200円   | 錦絵複製「升屋」          |         | 500円   |
| 絵はがき 2種類 8枚組      |           | 各 200円 | 錦絵複製「和胸丸」         |         | 500円   |

とぴっくす

▶「くすりの錦絵広告展」こぼれ話

先の特別展は、大好評で大きな反響を呼びました。

朝日をはじめ新聞各紙が取りあげ、中には北日本新聞のように紙面1ページ全部さいた所もあり、薬事日報をはじめ業界紙各紙もカラーグラビアで大きな特集記事を組んでくれました。

一方、テレビでも「ズームイン！朝」の全国放送をはじめ、岐阜テレビなどでも報道され、開期中は毎日200人程の見学者で賑わいました。



▶東京テレビ「ビジネス・ナウ」で特集番組が組まれました。名付けて「開設ブームの企業博物館」。このところ企業の博物館は開設ラッシュで群雄割拠の体相ですが、くすり博物館は一企業史に捕われることなく、日本の薬の歴史を大きく俯瞰していると

ころから、同番組でもその大半をさくなど、別格の扱いで報道されました。

▶「科学朝日」ほか掲載

科学朝日の11月号に4ページにわたって、くすり博物館が特集されました。また、週刊ダイヤモンド、週刊サンケイほか各紙でもユニークな博物館として取り上げられています。

▶専門図書館中部地区協議会の来館

11月18日、福井県の会員をはじめとする20名が研修のため来館。25日には岐阜県専門図書館協議会の一行も来館し、熱心に見学されました。